

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人 いわみ福祉会		
事業所名	グループホーム モモ (2番街)		
所在地	島根県江津市敬川町1230番地1		
自己評価作成日	令和3年12月13日	評価結果市町村受理日	令和4年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江上市乃木7丁目9番16号
訪問調査日	令和4年3月1日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

GHモモは行動理念‘利用者・家族との繋がり、地域との連携を大切に笑顔ある居場所を作ります’を掲げ日々利用者一人一人の思いにしっかり寄り添い、楽しく・安心に心身ともに活性化する生活を送って頂けるようお手伝いをさせて頂いています。常に個々の思いに寄り添いながらゆっくり関わりを持つことで、一人一人の生活スタイルを把握し、なるべくその人らしい生活が維持できるよう配慮しています。モモでは毎月の行事にも力を入れ利用者の意向を聞きながら計画し楽しみを持つことで生活に張りが持てるよう支援しています。家族様・地域の方々の協力を頂き夏祭り開催や文化祭参加等により開かれた施設作りにも取り組んでいます。職員は認知症介護実践者研修等の外部研修を積極的に受講し、また内部研修の内容も充実させ職員全員が専門性を持ってケアできるよう心掛けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

母体の養護老人ホームを含めた多くの介護保険のサービス事業所が比較的に近い場所にあるためいろいろな面での協力体制がある。同敷地内に小規模事業所がありコロナ以前は協力しながら地域との交流に努めてきたが、ここ数年は大半が中止となりグループホームのみでの活動を余儀なくされ、限られた中での活動に職員の苦悩が感じられた。中でも管理者を含めた職員間のチームワークは良く重度になってもできることを見つけ支援している。積極的に看取りに取り組む動きはないが、グループホーム内での対応が難しい場合も、法人全体で受け入れる体制も確保できており家族関係者の安心に繋がっている。法人内の内部移動はあるが、職員体制は安定しており研修等も計画的実施されている。今後も幅広い研修に取り組むことで職員個々のレベルアップに繋げていただきたい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの職員会議で行動計画を確認し合い実践に繋げている。	年度初めに職員が集合した形で理念についての話し合いをしていたが、コロナの為に中止になっている。グループホーム内では事業計画を含めて話をしており、独自の職員目標を掲げ、意識統一に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のため一時的ではあるが地域行事に参加できていない現状であるものの、11月地域コミュニティにて作品展ある為出品したり、年末には手作り蕎麦を地域から頂いたりしている。	地域のコミュニティセンターが近いこともあり、コロナ以前は交流が盛んに行われていたが、大半が中止となっている。今年度については、縮小した文化祭への作品提供等限られたものだけになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校などに出向き介護の研修などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い報告をおこなっている。また推進委員の方々から頂いた意見に耳を傾けサービス向上に繋げている。	コロナの感染状況に合わせて、多い時は書面開催として今年度も定期に実施。集合してできた時は、家族代表、地域代表、包括、関係機関からも参加を得ており、施設の状況を伝え意見をj得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員のメンバーになって頂いているので、会議等で意見を頂き協力関係を構築している。	運営推進会議には包括から参加があり助言を得ている。生活保護担当職員の訪問を受けたり、生活状況を知らせたりと情報交換に努めている。その他にも認定調査でも関わりがあり行政とはいい関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危機管理委員会の中で身体拘束をしないように定期的に会議や研修の場において対策等周知すると共に、職員の意識調査もを行い、身体拘束しないより良いケアの実現に向けた取り組みを行っている。	虐待、権利擁護等含めて年間の行事計画を作成し取り組んでいる。施設内研修ではわかりやすいように動画を用いたり、職員の中では不適切ケア目標を3ヶ月ごとに作成し、身体拘束のないケアを実践できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	危機管理委員会の中で不適切ケア防止目標を掲げ全職員で取り組んでいる。月末には自身の振り返りをアンケートにて行い、より良いケアに向けた取り組みを行ったり、施設内部研修を行い、学ぶ機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修参加した職員に施設内研修を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様には文書・口頭にて時間をかけて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が来訪された際や電話連絡時等に近況報告を行い、その際要望等聞くようにしている。意見があった際は話し合いにて改善すべき点など話し合いを行っている。	敬老会に合わせて家族会を開催していたが、ここ数年は中止している。その代わりにグループホーム便りを年2回作成したり、その他にも年数回は個人用として、行事の写真に字が書ける方は文章を添えて便りを作成して送り意見を得る機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議等にて職員から意見を聞き、各ユニット係長で話し合い改善すべき点など話し合いを行っている。	母体の法人の管理者との個人面談は年1回行われている。ユニットの管理者は改まった場では本音が出にくいこともあり、普段の雑談の中での意見に耳を傾けるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度面接や自己申告制度実施し職員が働きやすい職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を取り入れ外部研修に参加したり、会議等で職員に伝達することでそれぞれが知識を高めケア向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加することで他施設職員と情報交換ができ、より良いケアに繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースに合わせてゆっくりと関わりながら信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しやすい雰囲気を作り、安心して頂けるよう、しっかりと思いを受け止め信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの要望にしっかりと耳を傾け、現在の状況に合った支援が出来るように、相談しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを見極め、出来る範囲で役割を持って生活してもらうよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	嘱託医以外の受診支援や散髪、買い物等の外出援助等を家族に手伝ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店に行ったり、自宅付近のドライブに出掛ける支援を行っている。	コロナの感染状況に考慮しながら、面会方法を変更して対応している。行きつけの理美容院のある方は収まった時に出かけたり、帰宅願望のある方は鍵のかかった自宅を訪問するなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性に配慮した席配置を行っている。また手作業等のレクリエーション活動を通して利用者同士のコミュニケーション作りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要がある場合は連絡を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ個別の時間を作りながら雑談や作業している中からでも思いや希望を聞ける工夫したり、困難な方についてはしぐさ・表情から思いをくみ取る努力をするようにしている。また家族様から聞き取りを行っている。	入所時には生活状況や家での様子などできるだけ聞くようにしているが把握できないこともあり、普段の生活の中で、いい表情が見られる時、笑顔の出る場面などを見つけ、計画に繋げるようにしている。	残存能力を生かした個別援助計画の充実に努めていただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族様からお話を聞かせて頂く機会を持ち把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや様子観察などから状態を見極めるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なミーティングでケアの実践と振り返りを行っている。その際職員が意見を出し合い、また利用者や家族の意見も反映し現状に即した計画を作成している。	コロナの為本人や家族関係者が集合して担当者会議ができていないが、モニタリングを行い、電話や数分の面会時に意見を聞き計画を作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに細かく記録を残し、また口頭でも申し送りしながら情報共有している。それらを元に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向になるべく添えるよう柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で外出が困難ではあるが、感染対策や場面を考慮しながら地域に出かけて行く機会を検討していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に沿って対応している。協力医の往診は2週間に1度あり、その際状態の報告をしている。	家族対応で以前のかかりつけ医を継続することもできるが、入所時に殆どの方が往診可能な協力医に変更している。精神科等内科以外については、職員が受診介助を行い日頃の様子を詳しく伝えることで指示を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のちょっとした変化に気づく目を持ち必ず看護師に報告・連絡・相談するよう徹底し、即座に適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族様や病院関係者と密に情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様とは十分に話し合い、事業所としてできる限りのことはしていきたい。本人の思いに寄り添い主治医との連携を図りながら支援していきたい。	介護度が軽い時に入所した方も多く全体的な介護度も重くなりつつある。重度化に向けては家族関係者と十分な話し合いを続け、施設として取り組めることは行う意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置については毎年繰り返し研修を行い全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い、避難方法や経路の確認を行っている。	同敷地内に小規模と2つのユニットがあるため、協力しながら訓練に取り組んでいる。主に火災時の訓練を日中、夜間に分け行っている。母体の法人も近く、職員も地元が多い為協力体制は整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬意を忘れな様に言葉使いや声のトーンに気を使いながら声掛けを行っている。また一人一人が大切に思っている部分や折られる部分を理解しながら対応するよう配慮している。	入浴や排泄時の声掛けには注意するようにしている。耳の遠い方の場合、大きい声が響いて強く感じることもあるため、どのように聞こえるかを、職員間で話すようにしている。接遇研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや、希望を表現しやすい雰囲気作りを行い、思いを引き出せるよう努めている。また、本人が自己決定出来る様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人にやりたいことを聞き、手作業等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などを選べる方には自分で選んでもらっている。行事などの時にはおしゃれが出来るよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好きなものを聞き取り提供し喜んで頂いている。嫌いな物がある時には別の食べ物に替え提供している。準備や片付けが出来方には都度お願いをして手伝ってもらっている。	2つのユニットで副食を分けて作っている。調理の下準備などできることを手伝ってもらっている。おやつもできるだけ一緒に作ったり、誕生日には希望の物を作るなど楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録し、一日の摂取量を把握している。水分量が少ない方には細目に摂取して頂いたり、食事量が少ない方には栄養補助食品を利用し、食べれない理由等を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方は自分で、難しい方は介助を行っている。夜間入れ歯洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方は自分のペースでトイレに行っている。難しい方は個々のペースを把握し介助を行っている。	オムツの方は無く、リハビリパンツにパットの方が殆ど。車いすでもできるだけトイレで排泄できるように介助している。個人の排泄パターンを把握し、尿量に合わせてパットを使い分けるなど、不快にならないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の状態に合わせて対応を考え支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた時間・日数で出来るだけ満足して頂けるよう実施している。毎回本人の意思を確認しながら入浴サービスに繋げている。	大きめの家庭浴槽で、洗い場も広がっている。午前午後入浴できるようになっており、浴槽に入れない場合はシャワー浴対応になるが、ゆっくり温めるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は本人のペースに合わせて対応している。夜間入眠出来ない方は水分補給と一緒に過ごす対応をとっている。また、眠れない理由等を専門職を交え随時検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報が閉じてあり、職員が確認出来るようにしている。状態によっては薬を中止する場合もあり、看護師と情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出ていることを見極め、出来る範囲で役割を持って生活してもらうよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で出来る範囲内で散歩に出掛けたりドライブをおこなっている。	コロナ禍で外出行事は行えていないが、年初めの感染者の少ない時に数人ずつ分け、近所に初詣に出かけている。普段は施設周辺を散歩するなど外気に触れる機会を持つようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者がお金の管理をしている。コロナ過で買い物支援は現在行えていないが、状況によっては今後も場面設定を考えていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば随時連絡を取ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには季節の飾り物などを設置し季節感を感じてもらっている。また、ほーるないにキッチンがあり毎食匂いにより五感が刺激されるよう配慮している。	道路に面しているが車の騒音は殆どなく静か。建物周辺には木々が植えられ窓からの景色も良く季節の変化も感じられる。天井が高く、移動するのに十分なスペースも確保されており、落ち着いた空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で食事を食べる場所やソファでくつろげる場所を分けている。少人数でくつろげる場所も設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に家で使っていた物や馴染みの物を持ち込んで貰えるよう話をしている。	テレビやイス、衣装ケース、洋服掛け、小さ目のタンスなどが持ち込まれている。転倒の危険性がある場合にはあまり多くの物を置かないよう、個々に合わせた部屋になるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に設置してある手すりの他、個々に合わせ安全に生活が出来るよう家具の配慮やフローマットの設置など環境整備を行っている。		